

市民盆栽展

令和二年十月三日、五日／野幌公民館

二〇二〇年新型コロナウイルス流行により事業活動を縮小してのスタートとなりました。

新型コロナウイルス感染第二波は四月に入って道内でも都市部を中心に感染拡大が深刻化。ウイルスの拡大防止に私たちに責任ある行動が強く求められ高齢者の会員に事業参加による感染だけは避けなければなりません。

延期をしていた第四十二回定期総会、五月、六月、七月の研修会、江別市立病院開院記念日協賛盆栽展等中止としたところ。

六月、七月の道内での新規感染者数は減少がみられたので第六十七回江別市民文化祭（二〇二〇年六月二十五日理事会にて開催を決定済）市民盆栽展に出品準備の為、九月、十月の研修会を野幌公民館工芸室にて再開。工芸室での研修会は野幌公民館での新型コロナウイルス感染防止対策を実践することが出来たのがお



もいげけない収穫でした。

市民盆栽展は十一月三日、四日、五日の三日間野幌公民館ホールにて開催。作品の搬入は十一月二日午後より時間差で閉鎖中の駐車場側玄関を特別に利用させて頂き、短時間で作品展示を終える事が出来ました。

展示は十三席、四十三作品で樹種は五葉松、真柏、唐松、赤エゾ松、山もみじ、真弓、こまゆみ、リンゴ類、高山植物（樹・草）等、夏場の天候不順の影響もあつたなかでの作品の季節感・彩りが特によかったです。新型コロナウイルス感染防止対策上、展示会場は一方通行とし作品の説明は樹種名のみとしました。ただ搬出時の時間差徹底をされていたらコロナ禍での市民盆栽展は満点の成績でした。市民盆栽展後の十一月二十日道内の新型コロナウイルス新規感染者数は三百人超え。このおおよそ二週間前が市民盆栽展期間中でした。

江別市盆栽同好会 中川 隆

短歌大会

令和二年十月十七日（土）／野幌公民館／参加者二十三名

江別市長賞

佐藤美喜子

草原の飛蝗を素手で捕まえて

夫は孫らのヒーローとなる

江別市議会議長賞

岡田 雅子

「何故」といふ問ひはやめよう二人共

老いを深めて謎が増えゆく

江別市教育長賞

川村 静代

置き忘れし想いを地図に埋め戻し

肩に感じる秋の気配を

江別市文化協会理事長賞

古寺 柳子

着古した衣を脱げば心地よい

光と風が身体をつつむ

江別市短歌会会長賞

山下喜美子

飽くことなく今日も雨かとくく難聴の

われに応へる家族のありて

北海道新聞社賞

大島 愛子

山あいに夕陽かたむき今沈む

消えたのは時間 わたしの時間

朝日新聞社賞

長谷川敬子

ほんの少し知恵かかげつつコロナ禍に

生く秋空のサルビア赫し



高校生・中学生の部 入賞作品

高校生の部

天賞

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校

一年 長井 咲樹

新生活価値観の違い認め合い

マスクこしても深まる絆

地賞

北海道江別高等学校

三年 齋藤 浩颯

選挙権持つるだけでは意味はない

みんなでかえよう日本の未来

人賞

北海道江別高等学校

三年 大塚 真奈

コロナ禍でマスク生活苦しいな

普段の日々が戻るといいな

秀作

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校

二年 高橋 捺

自粛期間長い休みもいけれど

やっぱりあいたいみんなの笑顔

北海道江別高等学校

三年 熊谷 音々

秋になり長くなった放課後に

みんなで奏でた響きを想う

北海道江別高等学校

三年 佐藤 遥佳

秋の風散りゆく紅葉儚げに

この恋心もいつか散るのか

略農学園大学附属とわの森三愛高等学校

三年 太田 梓

学校は何をしにくる場所だろう

バスケ一色だった青春

北海道江別高等学校

三年 佐藤 杏奈

食の秋今年は自分で作りたい

甘い黄色のスイートポテト



中学生の部

天賞 江別市立江陽中学校

三年 本間 彩空

夢語る友の背中が大きくて

そばにいるのに遠く感じる

地賞 江別市立第一中学校

二年 和田 菜城

本当の自分見せるのもういやで

自分という名の役を演じる

人賞 江別市立大麻東中学校

二年 鈴木 悠真

公園で一人静かになつてみた

過去の自分と向き合う自分

秀作

江別市立第三中学校

二年 佐々木 芝

青い空ゆつくり泳ぐ白い雲

僕はそんな江別が大好き

江別市立中央中学校

二年 片桐みなみ

怖くても自分が出る精一杯

みんなを支えて自分も強く

江別市立第一中学校

二年 佐藤 出都

降り積もる幻想的な淡い雪

消えても残る人との絆

江別市立江陽中学校

二年 三浦 菜々

最後だね線香花火今落ちて

短い夏が静かに終わる

江別市立中央中学校

二年 高橋 陽菜

忘れればいいんだよって言うように

雨が突然ザーザー降った



俳句大会

令和二年十月一日(日) / 江別中央公民館

一般の部

江別市長賞

鳴りやまぬ拍手に似たり銀杏散る

高谷羽瑠子

江別市議会議長賞

餃子の爨をかるくおさえている秋思

長野 君代

江別市教育長賞

雁万羽朝日めざして発ちにけり

横山いさを

文化協合理事長賞

樺の木の白極まりてそぞろ寒

阿部 光子

横山いさを講師賞

そこ返けと舞ひ落つ雁群沿暮色

中村ひろむ

肉牛の眼青みぬ雁渡し

西村 榮一

中学生の部

天賞

いつまでも解けない雪と方程式

中央中 三年 八戸日菜乃

地賞

夕焼は沈む地球の心臓だ

大麻東中 三年 藤本 大雅

人賞

夏祭終わりを告げるげたの音

江陽中 三年 大出菜々葉

優秀賞

一瞬に心を射抜く流れ星

中央中 三年 岸岡七那美

霧の中見えぬ湖見つづける

大麻中 三年 高橋 柊羽

俺にだけ恥じらい見せる流れ星

江別三中 三年 佐藤 修平

体育館汗でこすれるくつの音

江別三中 三年 三澤 心美

時の流れ気つかせてくれたとんぼかな

江別三中 三年 佐藤 彩音

高校生の部

天賞

苺狩りすっぱい恋と甘い恋

江別高 二年 鹿口 優奈

秋晴の差し色私はパリジエンヌ

とわの森三愛高 三年 柏 建汰

地賞

白いくつきれいなままで自宅待機

江別高 二年 柴崎 美月

優秀賞

桜散る伝えられない恋心

江別高 二年 中村 穂

シャボン玉割れた瞬間一目惚れ

江別高 二年 大門 琉生

帰り道街灯でらすりの跡

江別高 二年 山崎 沙月

初雪が思いださせる初恋を

とわの森三愛高 一年 宮本 蓮

傷ついた心を癒す白い雪

とわの森三愛高 三年 伊藤 麗央

一般の部はコロナ禍の中、当日十六人が参加、コロナ対策をしつつ、四十八句

川柳大会

令和二年十一月一日(日) / 江別市コミュニティセンター

江別川柳会創立五〇周年記念

江別市長賞

水時計流されたもの流すもの

宇佐美慎一

江別市教育長賞

鍛錬の瑠璃は角度を厭わない

福栄 知舟

文化協会理事長賞

いつの世も舵を狂わず甘い餌

北乃風来坊

各題の特選句

「時」 浪越靖政選

機が熟すまでに辿った点と線

福栄 知舟

あと五分あなたの風を待ってみる

佐藤 芳行

の作品の中、全員の手選の中、各賞を決定。他に講師横山いさを氏による特選二句を講師賞とした。中高生の部は、西村榮二、横山いさをを二人で選句及び協議を重ねて、各賞を決めた。参加は中学生の部が五校五七九句、高校生は二校三九三句でした。

「鍛える」 佐藤芳行選
フィットネスクラブに集う
ヘラクレス
高橋 蘭

「鍛える」 佐藤芳行選

明日へと生きる力のスクワット

岡本恵美子

「火」 丸山英柳選

脊柱を突き抜く一本の火縄

福栄 知舟

核心を突くと女は発火する

志村ふみ子

火焰土器 父ら母らの喉仏

高橋 蘭

「自由吟」 藤谷怠民選

迷妄を開くと溢れ出す泡

福栄 知舟

いつだって人生なんてブルースさ

梶原 百華

優勝 福栄 知舟

準優勝 高橋 蘭

三位 落合 魯忠

新人賞 飯澤 理子 渋谷 和子

功労賞 宇佐美慎一

感謝状贈呈 丸山英柳氏 田中しげ子氏

(参加人数六十八名)



将棋大会

令和二年十月一日(日)
江別市青年センター
参加者 十八名

▲Aクラス (三段以上の部)

一位 小室 (野幌屯田町)

二位 東海林 (元江別)

三位 久保田 (大麻高町)

▼Bクラス (二段以下の部)

一位 渡 邊 (野幌屯田町)

二位 藤 田 (野幌若葉町)

三位 宇 野 (大麻東町)

▼小学生の部

一位 澤 村 (大麻泉小学校)

二位 飛 田 (第二小学校)

会員募集のコーナー

川柳を始めてみませんか

《アクティブシニアこそ文化の担い手》

会員になるには、毎月の句会(参加費三百円)に参加するか、郵便などで投句(投句料二百円・切手可)をしていただくだけです。句会のほかに、毎月「回川柳講座(勉強会)を開いていて、どなたでも参加していただけます。(月額千四百円)。

川柳は、五七五の世界で一番短い定型詩の一つです。川柳を始めて自分の思いを感じて表現してみませんか。会員は約四十名、中学生・超高齢者までいます。

《江別川柳会 会長 坪井政山》

【句会】毎月第四土曜日
午後一時～四時 野幌公民館視聴覚室

【川柳講座】毎月第二・第四土曜日
午前十時～十二時 場所右に同じ

【問い合わせ先】事務局 折原博美
TEL 〇一一二・八二〇・二六八

【投句先】嶋口幸美 TEL 〇六九〇・八二二
江別市東野幌町四六一〇

♪「あんにもいらすい
笑顔あればいい」

八十名、中学生・超高齢者までいます。

《江別川柳会 会長 坪井政山》

《江別川柳会 会長 坪井政山》

《江別川柳会 会長 坪井政山》

